

# 在りし日の明夫を偲んで

今年は春があつという間に過ぎ、一足飛びに夏が訪れてきたかのようです。  
本日は 夫 草野明夫のためにお越しいただき、まことにありがとうございます。

明夫は、昭和13年5月14日に名古屋市港区にて黒野家の次男としてこの世に生を受けました。明夫が幼い頃父親が戦死したため、母親が苦勞して三人の子供を育ててくれました。

子供の頃は母親や兄妹思いの優しい子供だったそうです。また、中学や高校時代は、アルバイトをして家計を支えたこともあったようです。

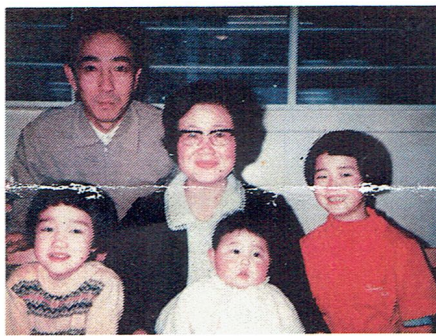
大学時代までは吉良町で暮らし、卒業後は吉良町の中学校で理科の教員として勤め、昭和42年4月に大学で知り合った宮子と結婚し、武豊町の住民となり、三人の娘にも恵まれました。結婚以来、知多の地で教員をしていましたが、平成4年1月16日、54歳の若さで突然脳出血で倒れ、「右半身麻痺」と「失語症」という重い障害を背負うこととなってしまいました。それから27年間闘病生活が続き、数々の困難を乗り越え、孫の顔も見ることができ、がんばってきましたが、平成30年5月8日に旅立ちました。(享年80歳)



昭和42年4月 結婚



大学時代 セミ仲間と



家族そろって

明夫の人生を振り返ってみますと、大学時代は化学教室で高分子化学の実験と教育ゼミナールの活動に没頭し、教員になってからは「支え合い、励まし合う学級作り」と「一人ひとりの学力を高める実践」に情熱を注いできました。とりわけ特別支援学級の児童が、社会に出てから自立するための「生きる力」を育てるため、個人の能力に合わせた指導を追及して、教育ソフトの開発に心血を注いできました。その結果、半田市や東海市の一部の小学校の特別支援学級では、そのソフトを授業で使っていただくことができました。

脳出血発症後、右半身と言葉の機能が失われ、病院で寝たきりの状態でしたが、三つ目の転院先の「名古屋市総合リハビリセンター」での訓練のおかげで、装具と杖を使って500m位は歩くことが出来るようになりました。失語の方は音声は残念ながら全く戻りませんでしたが、文字認識は少しずつ回復し、物の名前位は識別できるようになりました。その後言語聴覚士

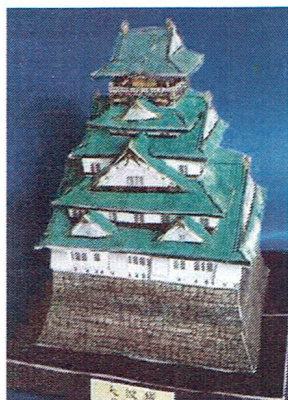
の先生の日記指導により、文章を目で読んだり、左手で書いたりできるようになりました。

まだ介護保険制度のない平成10年前後では、自分で工夫して左手のリハビリをせざるを得ませんでした。そこで「切り絵」、「ペーパークラフト」、「三角折り」、「ジグソーパズル」、「ミニドール」、「年賀状支援」、「野草の写真撮影」など、指先を使う作業を数多くやりました。



切り絵作品



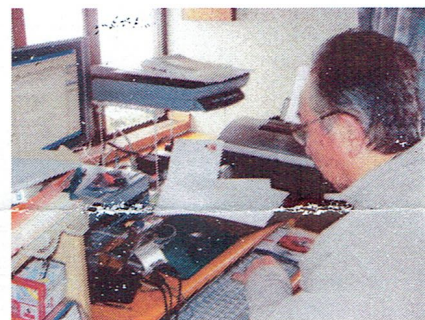


ペーパークラフト作品

趣味として作るのではなく、どれも左手が右手と同じように動かすことが出来るようにするための自己訓練でした。

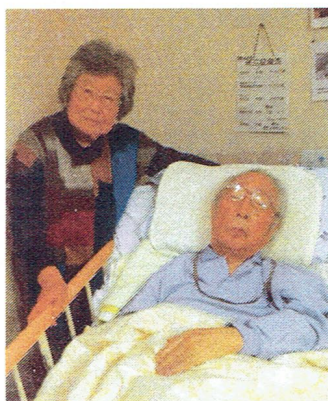
また、「一度失われたパソコンの技術を復活させる」という強い願いのもとに、パソコンで闘病の記録を作ることから始めました。30文字ほどの文章を入力するのに30分以上かかりましたが、入力できた時は、天にも舞い上がるような喜びようでした。それ以来、毎日コツコツと一文字一文字探しながら短い文章を入力し、だんだんと速度を上げて入力できるようにがんばりました。その努力の甲斐あって、ホームページを公開すること

ができるまで、言語表現を取り戻すことができました。そのホームページは、インターネット上で多くの人たちに見ていただくことができ、メールで感想などを寄せていただき、ずいぶん励まされました。



自宅書斎にて

努力家の明夫でしたが、音声はほとんど回復せず、会話でのコミュニケーションができなかったのが心残りです。



病室にて

お互いにいろいろな思いを伝え合うこともできずに、一足先にあの世に旅立ってしまいました。天国では両親や、先立った友だちや知人と肉声で語り、封印されていた思いを発散させてほしいです。また、残された家族を見守り、導いてください。

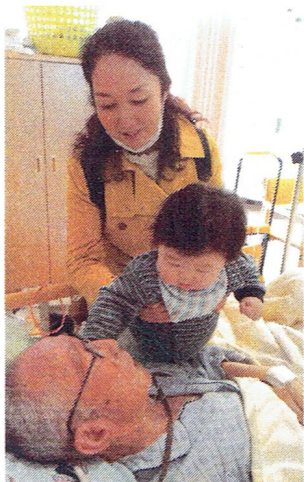
明夫が残してくれたホームページの一部を友人の深谷和明さんが再編集してくださり、公開いたしました。ここにアドレスを同封させていただきましたので、インターネット環境がある方は検索してみてください。明夫の闘病のようすや、リハビリで作った作品などをごらんいただけます。

最後になりましたが、会葬のお礼として、明夫が左手のみで組み立てたジグソーパズルをご用意させていただきました。「明夫の想い」を受け止めていただければ幸いです。

本日はご会葬まことにありがとうございました。

平成30年5月11日12日

妻 草野宮子



孫との対面



武豊の野草

追伸

娘三人は、よき伴侶を得、各々自分の好きなことを生涯の仕事として自立してくれた事と、昨年八月に初孫が誕生し、現在八か月の可愛い姿を見せてくれたことは、何よりも嬉しい事でした。